京阪神東雲
鳥取県立鳥取東高等学校同窓会
東雲会京阪神支部会報●第13号
http://okada.sub.jp/higashi/
連絡先　岡田俊一(山脈12回)
神戸市垂水区神和台2-2-9

母校の便りを同窓会総会で

盛大に平成21年度総会開催

21年度はリバーサイドホテルで開催されました。役員の改選時期にあたり、4期8年間会長職として本会の発展に尽くされた上林武夫氏（山脈10回）は顧問に退き新たに岡田俊一氏（山脈12回）が会長となりました。また副会長も鈴木亮介氏に代わり南部真知子氏（山脈22回）が選ばれました。

本部から会長、副会長が来賓として見え、川口副会長（東高野球部後援会長）は、野球部の雨天練習場の画像を示し最近の東高野球部の強さを説明。

残念ながら今年も夏の大会出場を果たせませんでしたが、投手陣の層も厚く初出場も夢ではないようです。故郷の味覚と話題と共に歓談が続きました。

本年度はリーガロイヤルで、27回が当番幹事★彡

本年度は初めて大阪中之島のリーガロイヤルホテルで京阪神東雲会総会を開催します。

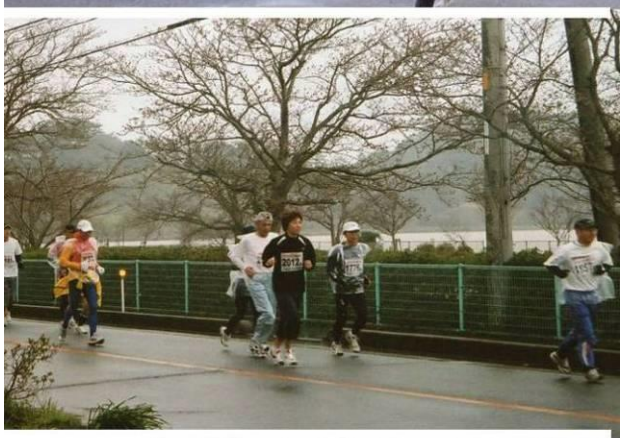
関西での生活も永きにわたり鳥取東高を卒業して早35年目を迎えようとしています。鳥取へは帰郷しておりますがなかなか同窓生と会う機会も少なくて、また京阪神東雲会同窓会に参加することもありませんでした。昨年鳥取の27回同窓会幹事より連絡があり本年度の総会は我々山脈27回の担当ということを聞き、少しでもお手伝いができればという思いで参加しました。

鳥取、京阪神の27回同窓生に手紙連絡、電話連絡を行い最初二人だけで始めた幹事会も三人四人と増え計10名となり心強い気持ちでおります。

諸先輩、同輩の更なるご協力、ご理解を得ながら当番幹事代表を努めます。

（山脈27回・当番幹事　和田山宏美）

たかがマラソン　されどマラソン



上から

８ｋｍ
２１ｋｍ
２８ｋｍ
３５ｋｍ

ゴール
タイム
4：53：33

橋 本　巌（山脈10回）　第２回

110余年の歴史をもつマラソン

マラソンの名称はいったい何に由来するのか。多くの方がどこかで見聞きされていると思う。ここで、記憶を確かなものとするため、その歴史と故事来歴をひも解いてみたい。

マラソンは、1896年にアテネで開催された近代オリンピック第１回大会が始まりである。近代オリンピックの創設者が、ギリシャの古代オリンピック（紀元前776年から約1200年続いた。当初の競技種目は10種で、徒競走は短距離のみ）復活に熱意を燃やしたピエール・ド・クーベルタン男爵であることは周知の事実である。マラソンをオリンピックの競技種目とすることを決めたのも彼であるが、その発案者はソルボンヌ大学のミシュル・ブレアル教授だった。ブレアルは、第１回大会がアテネで開催されることから、古代の“マラトーンの戦い”にちなんでマラソンとすることを提案したのである。

「マラトーンの戦い」とは

では、“マラトーンの戦い”とは、いったいどのようなものだったのだろうか。

紀元前490年に第一次ペルシャ戦争が始まった。ダレイオス王が率いた４万のペルシャ軍がマラトン沖からギリシャに攻め込んだ。迎え撃つアテナイ軍はわずかに9000人。圧倒的な劣勢にアテナイ軍のミルティアデス将軍はスパルタに援軍を求めた。当時のギリシャは、完全な統一国家ではなく独立性の強い諸国の連合国家だった。援軍を求められたスパルタは、地方競技祭の最中で兵を送らなかった。やむなくアテナイ軍は、援軍を寄せたプラタイア軍の1000人を加えた１万人の軍勢でペルシャ軍を迎え撃つことになった。そして結果は、巧妙な戦術を駆使したアテナイ軍が見事にペルシャ軍を撃退した。アテナイ軍は、その勝利を一刻も早くアテナイに知らせようと伝令を立てた。その役を担ったのは、飛脚の青年プリップデスだった。彼は、スパルタへの伝令としてアテナイからスパルタまで走

っていたが、こんどはマラトンからアテナイまで約40kmを全力で走り、城門にたどり着くと“わが軍勝てり”と叫んで絶命したと伝えられている。現代オリンピックのマラソンは、この故事にちなんで始まったのだが、アテネ大会にふさわしい種目だったといえよう。

42.195kmとなった経緯

さて、マラソンは、オリンピック競技の花となって今日も続いているのだが、42.195kmの距離は初めからそうではなかったのである。すでに述べたように当初は約40kmだったのだが、第4回ロンドン大会では42kmが予定されていた。ところが、時の女王メリーが「スタート地点を皇室育児室の窓の下にして欲しい」と要望、42kmが385ヤード（195m）延長されて今日に至った。子どもに見せるためにコースを変更させるほど、大英帝国の力は絶大だったといえるエピソードである。

オリンピックで始まったマラソンは、各地でも開催されるようになった。その最初の大会は、第1回オリンピックと同じ年にニューヨークで1度行われた。その翌年、アメリカの独立戦争を記念して設けられた「愛国者の日」（4月19日）に第1回ボストンマラソンが始まった。以降、1970年代から80年代にかけてニューヨーク、シカゴ、ホノルル、パリ、ベルリン、ロンドン、ロッテルダムと2～3万人規模の大会が今日まで開催されてきたが、これらはボストンを加えて世界8大マラソンといわれている。

駅伝の名称は律令制度にあり

駅伝は、日本で始まった競技で、日本語の呼び方そのまま「ＥＫＩＤＥＮ」で世界に通用している。少々野暮ったい感じがしないでもないが、では、その名前はいったいどこから来たのだろうか。そのことを問われて瞬間思いつくのは、「駅と駅を継いで走る鉄道を連想させる競技だから駅伝」というあたりだろう。当らずとも遠からずといえるのだが、本当は、歴史にゆかりがあるのである。

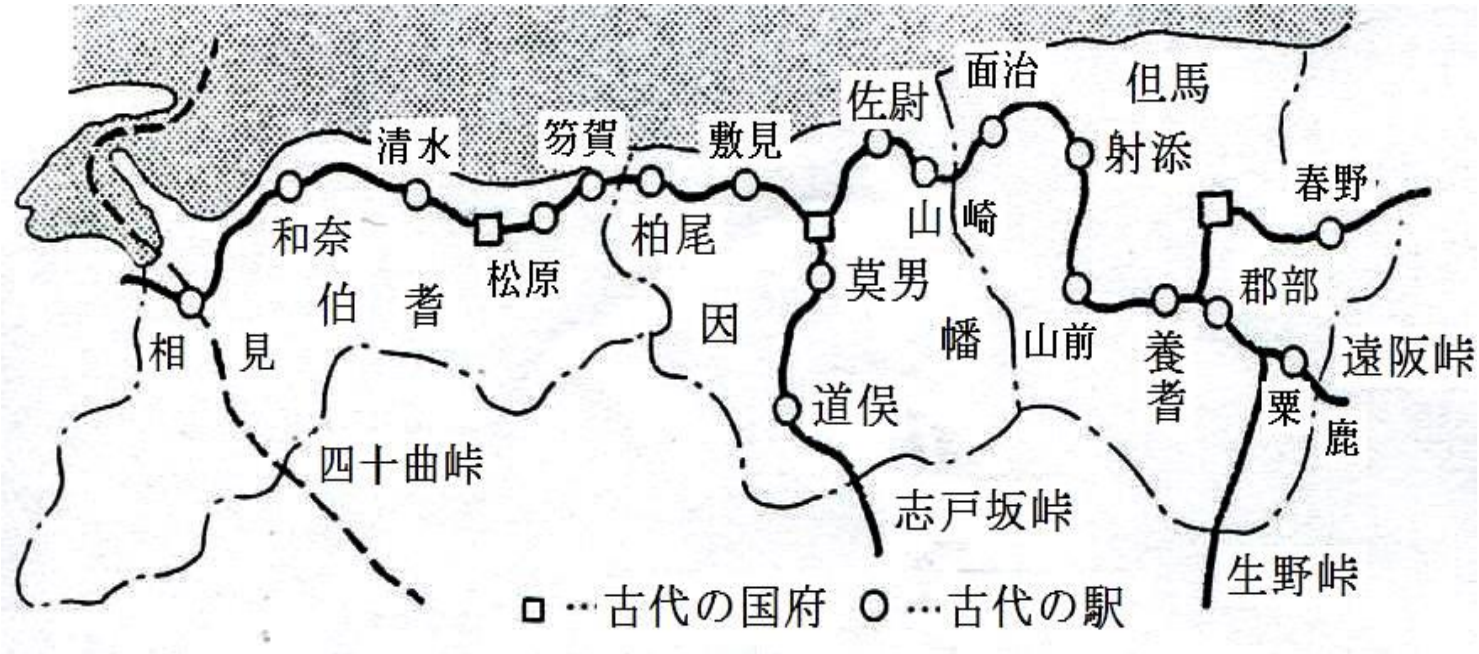
大化の改新の詔に「畿内に国司郡司・・・駅馬伝馬を置く」とあり、平安時代の延喜式兵部省には「諸国駅伝馬の事」というのがある。奈良時代から平安時代の中期にかけて古代の道が整備されていった（中央集権制の衰退とともに、平安時代後期には廃れた）。都から地方へ迅速に役人を運ぶとともに情報を伝え、地方から都へは租税・労働力を集中させることを目的とした。つまり、中央集権制下の行政・経済・軍事の必要性から生まれたといえる。

都から地方へ通じる古代の幹線道路は、大路・中路・小路に分類され、道幅は12～6mという立派なものだった。道には大体16km毎に駅が設けられ駅家（うまや）という施設が置かれた。幹線道路は必ずしも国府（県庁）を通過せず、国府と幹線道路は駅路（えきろ　国道）で結ばれ、郡家（ぐうけ　市町村役場。この地名は鳥取県に二つほど残っている）と幹線道路は伝路（でんろ　県道）で結ばれていた。それぞれの駅には、その規模によって5～20疋の馬が配置されていた。駅伝は、この駅路と伝路の駅伝馬制から生まれているのだ。

マラソンにせよ駅伝にしろ、古の故事から命名したものである。たかがマラソン、たかが駅伝というなかれ。

（続く）

古代山陰道（一部）▼



返信葉書(平成21年度)の近況報告葉書から

同窓生OB諸兄姉消息をお知らせします。本紙も１３号になりました。皆さんの“元気のもと”を返信葉書の近況欄でお寄せ下さい。

柏葉

喘息と高血圧の上最近は足が痛くてリハビリの毎日ですが、何とか日々暮らしております。皆様によろしくお伝え下さい。（８回/鎌谷義治）★お蔭様で頑張っております。80代ですのでの体に気を使って暮らしております。毎日、整骨院に通院治療の現状です。ご盛会心より願いあげます。(18/山根昭一郎）★元気にしております。当日は他の会と重複し、止む無く欠席いたします。旧会社仲間、海軍仲間と今でもゴルフをしています。(18／佐々尾昭）★この6月神戸海洋博物館に油絵100F４点を永久収蔵してもらいました。100Fはまだたくさんあるのでご希望があればご相談に応じます。20Fクラスの滝、船、波など同博物館で２ヶ月間企画展も開催、国土交通省からも表彰を受けました。(18/長澤卓重）★昭和16年旧制中学校に入学し大東亜戦争の最中、昭和20年3月卒業まで（我々は4年で卒業）毎日、戦時教育、学徒動員となった唯一の世代です。また奇しくも今年の幹事の方が山脈26期で私の長男が同期（高校は奈良市内ですが）歳月の経つのも早いものだとつくづく感じています。体力の続く限り元気で頑張りたいと思います。(19/河上義隆）★おかげさまで夫婦共々元気でエメラルド婚式を迎えることができました。明後年3月末まで公務員として努めます。(22/藤田忠雄）★まだ現役です。働ける間は頑張るつもりです。(24/田中秋男）

山脈

山荘の庭に実生で育てた「オオヤマレンゲ」と「フウリンウメモドキ」が初めて花と実をつけました。何事も初めてには感激します。(2/金谷充清）★来年は喜寿を控え、応募による“歩こう会”の企画・運営で多忙です。恍惚の人予防と喜んでいます。(3/井上欣宏）★小生今年2月より「原発不明癌」とたたかっております。お蔭様で山脈3回生関西同窓会（10/23）に参加できるまでに快復しました。これからも前向きに病とお付き合いをしながら残り少ない人生を送りたいと思っております。(3/岡田担久）★当日は関東出張です。サラリーマン生活54年、気力はOKですが体力知力は衰退しつつあります。(4/小路一完）★所属する美術団体の業務、絵画教室の仕事などで製作三昧というより追いかけられています。(4/中村美登）★10月11月の大半は夫婦で旅行と山歩きに明け暮れます。11月中旬は九州の武雄、山鹿、阿蘇とめぐり、下旬は山脈５の同窓会の後、恵那から木曽路を歩く予定です。(5/松下泰治）★子どもたちは離れ、夫婦だけの静かな生活が続いています。体力維持のため、毎日ウオーキングを続けていますがポッコリ腹は解消してくれそうにありません。(5/森田明弘）★全国、関西、そして個々による「山六会」を継続しています。加齢に伴う肉体的衰えなんかなんのその燃え続ける情熱は健在で豊富な話題と共に酒も進みます。「一笑一若」仲間を持つ人生は宝物の連続です。(6/久永浩）★子どもの時から遊びが大好きで。「遊で遊びし時も過ぎ　今や遊びもままならず　遊びの夢に　まどろみている」(7/谷圭三）★鳥取を離れて40年以上になりますが主人とのドライブはやはり山陰となります。市内の白兎会館で昼食、後、道の駅巡り、ハワイ、白兎、大栄　ポート赤碕で新鮮な野菜、くだもの、花を買い皆生温泉で一泊帰りは賀露市で魚を買うというのがお決まりです。何度行っても飽きません（8/下村美津江）★ひざ関節の人工関節への置換え手術をしました。今では普通に歩けるようになりスポーツ団体のボランティアで過ごす毎日です。今年も国体兵庫県選手団の副団長として新潟国体へ、全国障害者スポーツ大会は団長として出かける予定です。(8/上月正章）★近くの山に年4～5回登っています。来年は槍ヶ岳～烏帽子岳の縦走を考えています。（9/垣本信夫）★70歳になっても未だ好きなスポーツ野球にゴルフをテレビ観戦、また卓球は現役で練習に試合に頑張っています。(9/矢頭萬里子）★体力の衰えを痛感しており外国への旅も搭乗10時間以内にしたいと考えている。旅は元気の源泉である。(10/西尾康弘）会報12号の橋本巌さんの“たかがマラソン”の写真を拝見して東高在学中の若いお顔がよみがえりました。少々渋さがお出になっているところで若々しく見えます。(10/岩崎素彦）★成人病も適度な運動で数値も下がり今後も持続したいと思っております。海外旅行も遠方は控え、近場（アジア）にしています。(10/滝和男）★山脈10回生最後の同窓会が三朝温泉であり久しぶりにおしゃべりに花を咲かせました。自分もだんだん老いていくのだなあと老女の世話をしながら思い知らされ同窓会に幸せに感じました。やっぱり元気が一番、犬と朝のラジオ体操を頑張ろう。(10/西脇紀恵）★40坪の貸し農園で野菜作りが小生の生甲斐と毎日の生活の中心です。(11/鎌谷勉）★母親の介護と家の老猫たちの介護、さらに地域猫たちの世話等、忙しく過ごしております。(11/光岡喜久代）★地域の老人大学に行き、パソコン等、色々挑戦しています。鳥取発祥のグランドゴルフも楽しんでいます。(14/野崎文子）★都合により出席できません。脈々と幹事が受け継がれ開催されてきた東雲会。これも東高魂なのでしょうか。お世話様です。(18/下田俊二）★7人の孫に囲まれ子守、農業、村の行事など多忙な日々を送っています。

（18/松岡明枝）★還暦を迎えこれからの人生を模索するこの頃です。「砂の美術館」今年も見てきました。（19/殿井明子）★現在、税理士を開業中。（西村末長）★還暦を迎え、四国八十八ヶ所参りに挑戦しています。（19/福嶋純男）★いよいよ年金生活へと突入です。ワクワクドキドキです。自分の人生を楽しみたいと思っていますが何せ無趣味なのでどうなりますやら。（19/横川ひとみ）★退職まで残り半年、元気でこられたことに感謝しています。退職後、ハスラーを目指し？時間を過ごすことを考えてやっています。（19/井上秀正）★8月に還暦を迎え、気もちの上では実感が涌きませんでしたが人間ドックで歳相応の結果がでてしまい、生活パターンを変えなければと思っています。（19/小谷利夫）★二人の子どもも結婚、家を出て行きいよいよジジ、ババの二人の生活になります。“あれから30年”定年を控えていよいよ“仲良く”暮らしていきましょう。（20/山根行憲）★退職して時間に余裕が出来､1～2ヶ月に一度母の見舞い、墓参り義父の様子見に帰鳥しています。一日も早く鳥取道が完成してほしいものです。（20/井上繁範）★三番目の子が今年大学受験です。鳥インフルエンザが心配で外出を出来る限り控えています。食料も買い込みました。リーマンショックの影響も広がっているようです。エコも野菜くずの肥料で屋上までの「エコすだれ」を育てました。激動の時代、身にしみて感じております。（20/秋田幸子）★少し早めに退職したので自由になる時間がたっぷりあります。演劇鑑賞、写真、ヨガ等、好きなことを楽しんでいます。人生はこれから！（21/井上由利子）★93歳89歳の両親と、新生児と3歳半の孫の世話で忙しくしています。（22/三宅紀久子）★最近、詩吟と茶道を始めております。老後が楽しみです。（22/岡本考史）★糖尿病と友だちで、毎日40分の自転車通勤をしています。神崎川からアメリカ村まで気持ちよくサイクリングの毎日です。（22/増田正）★3年前、ご利用頂きましてありがとうございました。神戸ハーバーランドの船コンチェルトの社長･南部です。5月ブタインフルエンザで甚大な風評被害を受けましたが、ようやく立ち直り昨年同レベルに集客できるようになりありがたい限りです。あの狂気の騒ぎ方が如何に愚かであったかを理解した人間の知恵が秋以降の流行にも生かされていると感じます。人間の本質の欲求に基づく行動が「人と会いたい生き物」「マスクをはずして顔を確かめたい生き物」「楽体験を重ねたい生き物」に表されているのではないでしょうか。（22/南部真知子）★検診の度、精検項目が増えているのにもめげず（！？）教育に燃えています。人とのふれあいの中で鳥取東高卒業生の方々との出会いが時々あります。心が温かくなり元気が出ます。わが母校は永遠に不滅です。万歳！鳥取東高！！（24/岸上真理）★京阪神東雲会の益々のご盛況を祈ります。**船上での総会、復活して下さい。**（24/坂川八郎）★今年の春、一番下の一人息子が就職して静岡に行き上二人の娘共々全員手が離れホッとしています。これからは夫婦でいろいろ行ってみたいといっています。（24/竹内裕子）★介護福祉として働きながら、高校生の次男が所属するクラブ活動の世話役をしています。まだまだ自分の時間が持てません。（25/横山ひろみ）★子どもが成長し時間が出来ましたので24年ぶりに仕事を始めようと思います。何事も遅いということはありません。（30/宮崎朋子）★80半ばの義父母のお世話で忙しくなってきたと思っていましたら今度は14歳の老ネコが寝たきりになってしまいました。いろいろと大変ですが、頼りにされていることを幸せと思い頑張っています。（30/大西紀子）★京都より大阪に通勤。休日はのどかな景色を求めてブラブラ、またはグータラ。マイペースでやっています。もう少し目的意識を持たねばなりません。（33/西垣めぐみ）★受験生を抱え、高い塾代のために頑張って働いております。しかし、私自身の楽しみも見つけ、有意義に過ごしております。毎年、お正月、春休み、GW、夏休みには鳥取に帰省し、子どもたちも鳥取が大好きです。（36/松本佐和子）

オペラ歌手、やってます

谷口　伸（山脈　38回）

先ず甚だ勝手ながら、まったき私事から書き始めることをお許し下さい。

現在私は、新婚旅行の真っ最中。山脈8回、教職最後の十余年を母校で教鞭をとる栄誉にて過ごした私の父のキャンピングカーを借りて鳥取を出て大山に一泊、翌日とっとり花回廊を見てから京都に出たところ、予想していなかった祇園祭にばったり出くわしてこいつはラッキーと思いつつ、京都を後にし奈良で二泊。これから東海道をひた走り、東京で大学時代の悪友どもに妻をお披露目してから、キャンピングカーでも寝られる東北方面の涼しい山間をぶらぶらする、全行程約3週間のその道中にあります。

妻はドイツ人。今を去ること5年前の2005年、私が初めてプロのオペラ歌手として専属契約を頂いた、ポーランドとの国境の街、ドイツのゲルリッツというところで知り合いました。彼女は私よりも2年早くにこの劇場で働き始めていました。年は5つ下ですが、プロとしてのキャリアは2年先輩ですね。

3年後の2008年、彼女は別の劇場へ。私も、約5年勤めたこの劇場を後にし、2010年9月のシーズンから、トロイメライで有名なR．シューマンの生地、ツヴィッカウという街の劇場に活動の場を移すことになりました。ということで新婚早々、別居婚です(笑)。

･･･とここまで書いて、さあならオペラっちゃあどんなもんだいや、という方も多いのではないかと思います。簡単に言いますと、何やらごちゃっとした衣装を着て、

「あ～なたのこぉ～とが～、すぅ～きな～の～よぉ～～～♪」とか、

「おぉ～まえぇ～～のたぁ～めぇにぃ～、おぉ～れは～～ぁしぬぅ～～！」とか歌ってるやつです。か、簡単過ぎですか。

ドイツやオーストリア、またスイスの一部等、いわゆるドイツ語圏の劇場は、今やオペラの本場イタリアでもほぼなくなった、専属契約のシステムを採用しています。劇場に、座付きの歌手、合唱団、オーケストラ、果てはバレエ、舞台役者の一団までいて、しかも全員公務員扱い。但しオーケストラ団員は、一度劇場に入るとほぼ永久就職、他の条件のいい劇場に移ったり、自分から辞めたりしない限り定年まで演奏し続けられますが、その他は、ひとつの劇場で15年以上働かないと、いつでも肩を叩かれる危険が待っています。

その最後通告は毎年10月15日までにやって来ます。来シーズンから、君は要らないよ。ぽんぽん、ではなく、劇場支配人からその旨のお手紙が来ます。

8月中盤のシーズン始めからその日までに通知がなければ、その翌年のシーズンも続けて歌うことができます。自動契約更新。プロ野球選手の契約更改と似てますが、こちらはあちらと違い、給料が上がることなんぞ滅多にありません(笑)。

ですから、私の現在の立場は、座付きの歌う契約公務員、といったところでしょうか。

目下の私の主戦場は、本当に小さな劇場です。小規模の劇場では、限られた人員で最大限多彩な演目を回すようにプランが立てられます。必然、ひとりの歌い手に求められる多様さ、柔軟さは、大劇場とは比べ物にならないくらい多岐に渡ります。

シリアスな役は勿論のこと、ミュージカルで踊れと言われれば関節がきしむまで踊り、パンツ一丁で舞台に立てと言われれば、すっかりぬるくなったおっさん体型も厭わず人前にさらす。

今まで二十余りの役をこなして来ましたが、役の大小に関わらずそれぞれに思い出や思い入れがあり、そしてその全てが、次の役への血肉に糧になっています。

舞台に立ち、自分とは別の存在となって演じ切り、その出来不出来を観客からの拍手で実感する。こうして日々挑戦する喜びがあればこそ、開いた口を漸く塞げるくらいの薄給でも、この、己が身ひとつの商売を続けて行こうと思えています。

座付き歌手のためなかなか日本で演奏する機会に恵まれませんが、たまたま来年の2月、大阪シンフォニカーとの共演をさせて頂けることになりました。わしらが高校の卒業生にオペラなんぞやっとる酔狂なやつがおるげながどがなもんかいな、てな感じで冷やかし気味にでも覗きに来て頂ければ、幸いに存じます。

それでは、また。

画像はオペラ「リゴレット」(於とりぎん文化会館・2009年夏)

「冬の旅」の出会い

岡田　俊一（山脈　１２回）

出会いは、突然の電話で始まりました。今年の4月23日、高校時代の級友吉田旅人氏から「西宮のホームコンサートの会場で会いたい」という連絡が入ったのです。

同氏は、芸大に入り、途中4年間のミュンヘン留学。大学にも長期留年で居続け、院を出たのが29歳。その後は在野にあって独自の発声法を取得、権威主義を嫌い今日に至ってもなお現役で公演活動を続けています。

旅人として、全国で請われればホームコンサート行脚をしているとのこと。

Webで調べると各地のコンサートや同氏に師事したという方々や彼の演奏歴がヒットします。過去の「学歴や権威という衣」を出すことを良しとしない姿勢を貫いており、ここではあまり深くは触れません。

演奏会場は、西宮の高台にあるお宅でした。
シューベルトの歌曲「冬の旅」全24曲。最初に日本語で朗読し、次にピアノを弾きながら2時間余りのホームコンサート。

集まったのは、高校時代、中学時代、大学関係など17人。

コンサート内容を紹介する手作りのパンフレットがユニークで、全24曲の原語と日本訳が並べられ、彼自身の音楽観や「冬の旅」を演じることの意味・過去の生きざまについて触れられています。

高校時代から音楽の才能に関しては異彩を放ってました。彼のblogや当日のアルバム、その後の電話やメールでのやり取りを通じて考え方に多くの共通点を見つけました。

高校を出てから50年を過ぎて突然目の前に現れた彼と話すことで、当時抱いていた多くのことを捨ててきた今の私は戸惑います。幼い時から続けてきた「音の世界」を希求し続けている彼の存在・生き様に圧倒されました。

音楽の世界ー特にクラッシックからは縁遠い私にも「冬の旅」が聴ける年代になっていました。あの私自身が混とんとしていた時代が鮮明に思い出されてきます。

家族を養い社会的な役割も果たし、70歳を目前にしてまだ考えることのできる体力と健康がある今をどう過ごし「旅人」としての終着点をみつけるのか、吉田氏の出現は、おおきな宿題を与えられたような気がします。

実はこのコンサートに、吉田氏は森山先生を招待していました。森山先生は、母校の音楽教師として新制高校創立当時に勤務、校歌を作曲された方です。

コンサート会場の近くにお住まいでした。先生の作曲された校歌は今でも私は歌えます。とてもいい調べでいわゆる校歌然とした感じはなくその旋律は学生の愛唱歌として親しまれていました。

平成10年(1998)11月の京阪神支部総会にご出席になり全員で校歌「渦巻き起こる～」を 歌った時に『私は甲子園に住んでいます。私は90歳まで生きますので、なんとかそれまでには甲子園で校歌を歌いたい』と話されていました。

当日のその話を出すと、今度は『私は100歳まで生きますから甲子園で歌いたい』と言われてました。

会場のお宅は急な階段でとても上がれないから挨拶だけで終わるという付き添いの娘さんの心配を振り切って、会場に上がられコンサートの前半12曲まで聞かれました。

吉田氏はコンサートのパンフレットの各ページ末尾には、各曲の終わりの「無音」を味わい音のしないようにページをめくって下さいーと注意書きが書かれていました。ところ が前半の曲が終わるたびに、吉田氏はティッシュで鼻をかむのです。演奏までは小声でしか話さず声の調子に気を配る彼に「風邪をひいているの？」と聞くと 「実は泣いていた」とのこと。

以下彼からのメールの引用
『高校の＜校歌＞を作曲した森山先生が、生きておられて、玄関の下まで来て下さった、それだけで、僕は、

足がガクガクと震え、フラフラになり、貴君が、背中におんぶしようとする光景を目にして、僕は涙が止まらなくなりました。H君に、「僕、興奮して、涙が止まらなくなるから、先に上へ上がっているから」、と 言ってM宅に戻りました』

森山先生は演奏の間中、吉田氏のドイツ語に合わせ唇を一緒に動かし時々涙ぐんでおられました。帰りの階段でお聞きすると、ご自身も「冬の旅」がとてもお好きで 当時の高校生が何曲かお気に入りのものをドイツ語で歌っていたのだとのこと。耳も御達者で中途で帰宅するのが残念そうでした。

吉田氏も終曲まで終えたら、母校の校歌を流すつもりだったようです。ご高齢で足が不自由な状態にも関わらず、我々でもきつい階段を上がり、魂の籠った朗読と歌唱のシャワーに満足されていました。

高校時代は私は美術部、彼は音楽部。同じ芸術分野でもあまり接点はありません。むしろとんがった時代、対抗意識があり隣同士の部屋で意識的に相手の「部」を無視していました。

しかし、音楽は人の心を揺さぶるものだという事例をこの日は目の前に見た思いです。

不思議な感覚が湧きあがる空間がこの夜にはありました。【写真は森山先生と吉田旅人氏・山脈(12回)】

会費（寄付）ご協力のお願い

本年度も京阪神東雲会運営費として会員の皆様に年次会費（寄付）一口1,000円の出捐をお願いしております。総会に参加される方からは、当日参加費用に含めて会費を頂きます。

この会費が通信費など当会の運営費を支えています。昨今の物価の高騰でデータ管理会社への出費が高騰し過去の準備金も底をついてきました。

一方総会参加者や、会費(寄付金)収入が減少傾向にあり昨年度は35万円弱あった繰越金も今年は8万円余りに激減しました。

そこで、データ管理の業者を変え、また当会役員の手作業でできる部分は我々で行い諸経費を切り詰め財政の健全化に努めているところです。

ぜひとも、会費の継続と多くの会員の方々の総会への参加をお願いいたします。

総会では同期ごとにテーブルを用意しています。同期会を兼ね総会へぜひとも数多くご参加ください。

（会長 岡田俊一・会計幹事 横山毅）

郵便振込「口座番号 00940-2-133540
加入者名　京阪神東雲会」

平成21年度の会計報告

平成21年度　総会関係会計　　単位　円

費目	収入	支出	残高	備考
前年度繰越	0			
総会会費	665,000			
寄付金会計	100,000			
当番幹事臨時徴収	89,200			
総会費		588,000		83名
東雲会会費		77,000		当日入金分
会議費		114,298		
通信費		16,530		切手はがき
総会資料作成費		15,529		インク用紙等
合　計	854,200	713,357	42,843	

寄付金会計　　単位　円

費目	収入	支出	残高
前年度繰越金	347,159		
21年度寄付金 H21.4.1～H22.3.31	208,160		194件
総会当日入金分	77,000		77件
会報編集通信費		5,000	
関電システムソリューションズ支払		425,250	
振込料		525	
本部総会出席費用		20,000	
20年総会費用補填		100,000	
合計	632,319	550,775	81,544

ネット上での交流を　編集後記

Google および yahoo で『京阪神東雲の窓』を検索すると当会ホームページが見られます。過去の総会の様子はホームページで見ることができます。また掲示板もご利用ください。本紙への寄稿も大歓迎です。

谷口　伸氏(山脈35回)の寄稿を6頁に掲載していますが、来年2月16日(水)の大阪交響楽団2010年度定期演奏会で公演をされます。当会総会に父親の谷口肇氏(山脈8回)も本部来賓として来られます。コンサートA席の割引券も持参されますのでご希望の方は購入ください。カットは山崎勝彦氏(山脈12回)。　(おかだ)

第153回定期演奏会　2011年02月16日(水)

「マーラーの歌曲とベートーヴェンの後期弦楽四重奏曲Ⅰ」
2010～2012年度全3回シリーズ　～マーラー没後100年
指　揮：寺岡 清高(正指揮者)
バリトン：谷口 伸

ベートーヴェン：劇付随音楽「シュテファン王」序曲
マーラー：「最後の7つの歌」"死んだ鼓手"
マーラー：さすらう若者の歌
ベートーヴェン：弦楽四重奏曲(弦楽合奏版) 第12番 作品127